

発行 中央大学学会「白門50会」支部  
 編集 広報部会 外村幸雄(法・政治) 山下史雄(法・政治)  
 投稿/連絡  
 山下史雄 E-mail: [grande8131pescad@kub.biglobe.ne.jp](mailto:grande8131pescad@kub.biglobe.ne.jp)  
 ※投稿は電子メールで。電子メールの写真は、jpegでお願いします。

## ハワイ大学マノア校に本学の海外拠点第1号を設置

ハワイ大学マノア校は、「グローバル人材育成推進事業」採択後に中央大学と全学協定を締結した第一号の大学で、ハワイ各地に教育機関を持つハワイ州の州立大学システムの中核です。オアフ島ホノルル市近郊に広大なキャンパスを有し、2万人の学生が学んでいます。同校は、特に天文学、海洋学、バイオテクノロジー、外国語教育などの分野で全米トップレベルにあり、伝統的にハワイの地理的・文化的背景を活かした学問分野に特色があります。

ハワイ大学マノア校と中央大学の間では、2013年秋より学生の交換留学が始まっています。また、本年2月には、中央大学国際センターの企画する語学研修と地域色豊かな講義で構成されたカスタマイズの短期留学プログラムも実施します。さらに、理工学部や総合政策学部でも独自の学生交流プログラムが検討されています。

本学の海外拠点第1号である「中央大学パシフィック・オフィス」は、同大学キャンパス内にあるイースト・ウェスト・センター内に設置されました。同センターは1970年にアメリカ合衆国とアジア・太平洋諸国の相互理解と連携を強めることを目的に設置された連邦機関で、世界的にも著名な研究・教育機関です。

中央大学は昨年12月にハワイ大学マノア校と拠点形成の契約を締結し、本年3月7日(金)には、このイースト・ウェストセンターにて、ハワイ大学および同センター関係者、重枝豊英在ホノルル日本国総領事を来賓に迎え、「中央大学パシフィックオフィス開所式」が開催されました。

中央大学は、「環太平洋」に重点を置いて国際展開する構想を持っており、環太平洋地域の要となるハワイ州に拠点を構築したことは、環太平洋地域全体でのグローバルな事業展開への足掛かりになることが期待されています。

なお、本年1月には、ロンドンオリンピックに出場した陸上競技部の飯塚翔太選手が協定校となったハワイ大学で、2014年シーズンインに向けての“身体作り”を目的とした強化合宿を行い、「今後もトレーニングなどでぜひ活用していきたい」とコメントしています。

(外村幸雄)

### 「中央大学パシフィック・オフィス」開所式開催



福原紀彦学長による開会の挨拶



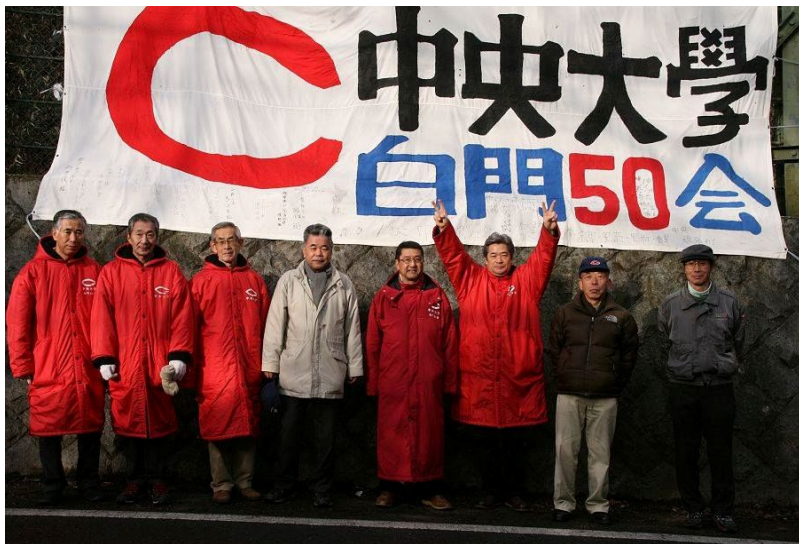
来賓挨拶：ハワイ大マノア校 トム・アップル学長

開所式にお越  
 しいた  
 いただいた  
 ハワイ大学マ  
 ノア校関係者  
 の方々



本学パシフィックオフィ  
 スが入るイースト・  
 ウェスト・センター  
 (「草のみどり」から)

## 予選会には行きたくないのだが…



応援する白門50会のメンバー

すでにご承知の通り箱根駅伝は2年連続予選会からのエントリーとなりました。50会では本戦出場まで、出場すれば従前通り笹塚バス停手前「うたゆの宿」前で応援を続けることに変わりはありません。とは言え、願わくはシード権を再び取り返し、余計な予選会を経ずに、いつも通り、当たり前のように、いきなり本戦出場として欲しいところです。OBの思いはなかなか通じないもどかしさを感じる今日この頃であります。(笑)

なんと言っても中大は優勝回数と85回連続出場の記録という輝かしい記録を持っています。連続出場記録については、本戦でシードに入られたこれまでと違い、予選会という関門を越えないと伸ばすことはできません。

昨年10月19日、初めての予選会の応援に出かけてきました。会場は立川昭和記念公園、西立川駅8時に集合してコースに向かいました。44校600名近くの選手が一斉スタートします。1人20

キロを走り、上位10名のタイムの合計で順位を決めます。本戦に進めるのは上位13校(昨年は90回の記念大会で3校多くなりました)、狭いコースを大勢で走るこの予選会、行く手を遮るランナーで大混雑します。これは並大抵では予選通過は難しいというのが第一印象でした。チーム10名が20キロを1時間前後のタイムで走らないとしない計算です。果たして大丈夫だろうか、不安が募ります。

全員が走り終え、結果発表の会場で、中央大学の名の呼ばれるのをじっと待ちます。1位から順に発表されます。前年予選1位で通過した日体大は、見事本戦でも優勝を果たしました。あやからんことを望みながら結果を待ちました。1位東京農業大学と呼ばれ、日体大に続くことはできませんでした。それどころか、10位以内にも入れませんでした。11位上武大学が呼ばれ、まさかの一念が脳裏をよぎりました。12位中央大学、やっと呼ばれました。記念大会でよかった。特別枠にしろうじて入れたわけですから。

予選会の応援、分かりにくいことこの上もありません。中大のゼッケンを付けた選手を応援しますが、なかなか10人が目の前を追加してくれません。6人までは何とか応援できましたが、その後がなかなか来てくれません。全員が通り過ぎたときには、いったい順位はどうなのだろうかと、不安だけが残りしました。本戦では良くも悪くも順位が明らかですが、タイムトライアルレースは本当に最後まで冷や冷やさされます。

予選会12位で何とか本戦に出場できたものの、シードで10校と混じって本戦を戦うのです、10位以内に入るのはよほど頑張らないと難しいですね。総合15位という残念な結果となりました。敗因は何か? ずば抜けたエースと呼ばれる選手がいないことでしょう。

2014年も苦戦が予想されますが、しっかりと次の世代に襷を渡して欲しいのです。

さて、50会としては、昨年同様昭和記念公園での予選会から応援します。多くの皆様のご参加をお願いします。

(山井俊昭)

## しっかりと次世代に襷を

以前より利用していました、yahoogroupsのサービスが来る5月28日に廃止となります。その後の皆様へのお呼びかけのツールとして「freeml」を利用します。以前のメールはこちらで移管しました。従いまして、しばらくの間両方のシステムから同じメールが届くかと存じますが、どうかご容赦願います。

<http://www.freeml.com/hakumon50> にアクセスしていただくと、メンバーの確認が

## メールによる伝達方法の変更についてお知らせ

できます。各種設定もできますので、一度覗いてみてください。プロフィールなど登録していただくと、お人柄が伝わってありがたいのですが、任意でお願いします。

いろいろな機能がありますのでマイページを作成してご利用ください。

ご不明な点は山井まで。

yamai@yokohamafp.com

または

090-3139-6621

# シルクロード終着駅「正倉院」を訪ねて

先回の法隆寺を訪ねた折、宿題になっていた奈良の名所のうち、今回は正倉院を訪ねてみた。この正倉院もユネスコの世界遺産であり、文化遺産の宝庫である。毎年秋に曝涼（虫干し）が行われる時に、展覧会があり、これに合わせて行ってみた。奈良の中心部がそのまま公園と言えそうな、奈良公園の中心に東大寺がある。この東大寺は8世紀前半に聖武天皇が建立した華嚴宗の国分寺の総本山で、2万坪にも及ぶ広い寺院で、「奈良の大仏さん」と呼ばれ愛されている、毘盧舎那仏が鎮座している。その東大寺の境内の奥にあり、日本のみならず唐、西域、ペルシャ、ギリシャ、イタリアからの聖武天皇が愛蔵した御物を含め約9000点、数え方によると数十万点ともいわれるものを蔵しているのが正倉院である。当時は、官庁や寺社の倉庫を正倉と呼んだらしいが、現存するのはこの東大寺の正倉院のみであるらしい。元々は、穀物倉庫であったようで、床の高さは3mもある校倉造りの建物で、北倉、中倉、南倉からなる、一棟三倉式である。東大寺を建立した聖武天皇が崩御された後、妻の光明皇太后が四十九日の法要に天皇の愛蔵品を東大寺に施入され、正倉院に納められたもので、756年のことである。

正倉院には聖武天皇の御物、儀式用具、日常生活品、製法技術品等のみならず、薬物も多数納められている。御物には厨子、螺鈿、八角鏡、屏風、香炉、絵箱、几筵等の愛用品があり、また、刀剣、甲冑、弓矢、鞍等の武具もある。その他、衣装・装束、王冠、仮面、楽器（琵琶、琴、笙、鼓）、金工・木工、ガラス製品等もある。多岐に渡った愛蔵品の数々だ。それらの他に、少々面白いのが、聖武天皇や光明皇太后の書である。聖武天皇のその性格を現わす、几帳面で、若干弱々しく感じさせる筆跡が「雑集」に残っている。この聖武天皇は疫病の流行が原因であるが、平城京から恭仁京、難波京、紫香樂京へと都を転々と移しているから、そのような性格だったのかとその書からも伺える。一方、光明皇太后のそれは、肉太で豪快な筆遣いが「樂毅論」に見られ、夫を支えた強い女性を感じさせられる。また、面白いものは、21個の櫃に納められた60種の薬物である。麝香、犀角、人参、桂心等の薬は、唐や朝鮮半島からの渡来品であろう、特に、病弱だった聖武天皇の医薬品と考えられる。それ以上に不思議なのが武具である。正倉院宝物の目録である「東大寺献物帳」には、刀・100口、弓・100張、矢・100具（1000本）、甲（桂甲）・100領も記載されている。何故？聖武天皇の護衛のためのものだったのか、それとも、他に目的があって、正倉院に仕舞って置いたのか？光明皇太后の意図したことか、それとも、時の権力者・藤原仲麻呂あたりが隠し持っていたとかいろいろ説があるようだ。しかし、その仲麻呂が逆臣として誅殺された時（764年）に朝廷側に使われており、現在残っているのは、「金銀鈿莊唐大刀」を含めて3本のみである。

このような宝物に群がって、狙った歴史上の人物たちが多く居る。まずは、弓削道鏡から。御物を施入した光明皇太后の娘である考謙天皇が未婚のまま更年期を迎え、気鬱病になった時、治療に当たった看病禪師が道鏡である。和製ラスプーチンと呼んでも過言ではない、巨根伝説の有る道鏡は考謙天皇に取り入り、「歐陽恂真跡（おうようじゅんしんせき）屏風」一具十二扇を引き出している。その他、

呪術関連の経典、「孔雀王呪経」、「大金色孔雀呪経」、「十一面観音神呪経」等多数も借り出して、戻していない。次に、平安期の三筆の一人で、五十人の皇子・皇女をもうけた艶福家として有名だった、嵯峨天皇も多くの宝物、特に文化財を出蔵させ、買い上げという形で入手している。その出蔵された宝物は、屏風三十六帳、白石鎮子十六枚、王羲之・王献之父子の真筆「大小王真跡帳」と「真草書二十卷」（鑑真和上が来日時に持参した中のもの）等の多くを引き出したままだ。その他、関白の藤原道長、桓武天皇、平城天皇、鳥羽上皇、後白河上皇、後嵯峨天皇、後深草上皇、足利義満、足利義教、足利義政、織田信長、徳川家康、二代将軍・秀忠、家綱（四代）、明治天皇、伊藤博文、大久保利通、三条実美、岡倉天心等々の、時の権力者が開封し、持ち出し、そのまま行方不明となっている。光明皇太后が施入した時に、納めた宝物の全品名が、総称・「東大寺献物帳」と言われている、「国家珍宝帳」、「屏風花檀帳」、「大小真跡帳」、「藤原公真跡屏風帳」、「種々葉帳」の5巻に記録されて、この献物帳には、御物が約740点記載されていたが、現存する物は、約150点のみで、失われている物は何と、590点に上る。

しかし、正倉院には約9000点もの宝物が納められているのにと考えられるのだが、約8500点の宝物は、平安時代、鎌倉時代や江戸時代に追納された訳である。歴代権力者でも、東大寺の修復には貢献しながら、正倉院から宝物を引き出さなかったとされる人物もあり、源頼朝や豊臣秀吉はその中に当る。

そのような、引き出され、紛失したものの中で、香木は特異な存在ではないだろうか、少々考察してみる。それは、通称・蘭奢待（らんじゃたい）と呼ばれる、黄熟香である。この香木は東南アジア（現在のラオスからベトナム）産で、沈丁花の一種に生じた樹精の塊で、香りを楽しむ「香道」で使われる。正倉院に現存する、この「蘭奢待」は長さ五尺一寸（155cm）、口径一尺二寸（36cm）で、重さは三貫五百斤（13Kg）のものである。なぜ、特異な存在かと言うと、その数箇所が切り取られているからである。第3代将軍で、金閣寺を建立した足利義満が1385年に、義教（義満の3男で、四代将軍義持の同母弟）は1429年に、また義政（第8代で、義教の子でもあり、銀閣寺を建立した）は1465年に、3代とも蘭奢待を切り取っている。また、織田信長も、1573年に一寸四分ずつ、2片切り取っている。この2片について、信長は、一つを正親町（おおぎまち）天皇に献上して、もう一つは相国寺での茶会で、千利休たちと使っている。最も新しい切り取りは、明治天皇が行ったもので、その義政や信長や明治天皇が切り取った箇所には付箋が付けられ残っている。どのような香りのものであろうか、我々には嗅ぐことは出来ない。

光明皇太后が夫・聖武天皇の御物を傍に置くのが忍びなかったのか、東大寺に施入した収蔵物は当時とは相当に変わってしまったが、それでも、世界遺産として日本民族の誇ることができる宝物である。いや、ギリシャ、イタリア、ペルシャや西域のみならず、中国・朝鮮の文化がこの1200年の長きに渡って守られて来た種々の宝物は日本の宝以上に、人類の宝である。流失や損傷することなく、後世へ伝えて貰いたいものである。（理工・北崎邦彦）

# 政治に関わる仕事をされているみなさん、情報交換しましょう

お互いに60歳を超え、十分おじさん？おばさん？熟年となりました。

ところで、みなさんは鳴門市をご存知でしょうか？そうです、四国の東の端、淡路島を結ぶ、渦潮で有名なところ。そこで私は市議会議員を務めておまして、昨年11月17日の選挙で4回目の当選をいたしました。つまり地方の自治、行政に携わっているわけです。

ふと思ったのですが、50会のメンバーの中で私みたいな政治家的な人は何人いるのでしょうか。もし、いらっしゃるなら連絡の取り合いをして、情報交換をしたいものです。

今、地方は大変な時期であり、生き残りをかけた状況で、市民サービス向上をめざし、まちづくりを図っています。ただ大都会にない落ち着いた時間の流れ、人と人とのやすらぎの空気があります。そんなことを大切にしながら、毎日を過ごし

## 4期目の市議 徳島県は鳴門市から一言

ております。

今年はソチ・オリンピック、サッカーのワールドカップ等があり、2020年東京オリンピックへとスポーツに関心が高まっています。

我が鳴門市をホームタウン、メイン会場とするサッカーの徳島ヴォルティスが、今年J1に昇格し、試合が展開されます。私は中学、高校とサッカー選手として活動し、インター杯の県代表選手として四国地区大会に出場したこともあり、大変期待と興奮をしています。

ぜひ鳴門にお越しください。

それでは、どこかでお会いしたいと思います。

島県鳴門市撫養町黒崎字清水 95

088-686-2333

メール akioka@tv-naruto.ne.jp/

(商学部・秋岡芳郎)

## 動き続ける世の中

雑記

今年の節分は全国的に春の暖かさであつたが、翌日の立春は一転して寒波の襲来で小生の居住地ここ東京の多摩地方では今、冷たい雨が降っている。午後からは雪に代わるかもしれない積雪予報もでている。雪に慣れていない生活での積雪は通勤・通学や買い物に困る。還暦を過ぎた身に雪交じりの急激な寒暖の差は遠慮して欲しい。天に向けて大きな声で届けたい気持ちになる。▼小生にとって母校の箱根駅伝の結果を除けば、おかげさまで穏やかに正月を迎えることができた。ところが世間、社会は動いている。一月末に、若返り新万能細胞「STAP」を発見したとの第一報をテレビ番組の報道ステーションから知らされた時である。IPS細胞が脚光を浴びている中での新発見である。最初は我が耳を疑った。万能細胞は次々と容易に見つかるのだらかと。その後、発見までの経緯が各種メディアで報じられ成程と得心した。たゆまぬ努力と諦めない気持ちと結晶させた理化学研究所のリケジョ小保方晴子さんに万歳だ。▼二、三日後には、政治・行政の分野で驚いた。橋下徹大阪市長の突然の辞意表明であり選挙に出馬するとの会見である。大阪都構想の実現のための局面打開と受け止めた。民意を力に転換して先に進めようとの思いであろう。橋本さんの戦略・戦術には賛否両論がある。選挙は民主主義の根幹をなす制度である。果たして、選挙結果とその後はいかがとなるのか。目を向けて行きたい。▼ソチ五輪が開幕す

る。この稿が会報に掲載される時には、結果は判明している。高梨沙羅さんは間違いなく金メダルを獲得しているに違いない。中年の星葛西選手にメダルを望みたい。スキーモーグルの上村愛子さんの夢が実現することを親の世代として期待したい。競技結果も大切な指標であるが、なによりもソチ五輪が平穩無事に終了することを祈念する▼最後に、居住地の東京都知事選に触れて筆を置くことにしたい。東京五輪招致の功労者の一人でもある猪瀬前都知事が昨年一二月に政治とカネの問題で追及を受け辞職した。政治とカネは古くて新しい問題である。襟を正し説明責任を果たす政治家を求めたい。▼舌戦が繰り広げられている東京都知事選。一六人の候補者が、首都の顔を目指している。ネット関係の三〇代の候補者を除くと新鮮味に乏しい顔ぶれのような気がする。都知事には潤沢な予算で大きな政策が発揮できるようである。近い例でいうと、石原元知事は、ディーゼル車規制や羽田空港国際化などを実現した。首相と違い、知事の場合は四年の任期が保障される。じっくりと腰を据えた政策ができるのも強みともいわれている。▼エネルギーや原発問題も争点となっているが、「都知事の仕事は都市計画、福祉、交通、教育と幅広い。現場を歩いて課題を見つけ、住民の暮らしを守る生活者の感覚も必要だ。少子高齢社会が迫る中、具体的な道筋を示すことが求められる。」と行政経験者が新聞で述べていた。果たして、来る二月九日の投票の都知事選の結果はどうなるのであろうか。注目していきたい。

(2月4日 塩谷 治史記)